

中学生に「社会を支える姿」を伝える



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、10月4日（水）、浜松市立北部中学校で行われた授業に、浜松出張所の広報官・村松慎一郎一等海曹を講師として派遣した。

これは、同校の1年生に対し、「身近な地域で社会を支えている人々の姿から、自分たちの生活を見直す」とテーマに、実際に社会で活躍する多くの大人から直接話を聞いたり、インタビューを行うことで「支える姿」を見つめ、生徒自身の視野を広げる目的で行われた。今回は自衛隊のほか、市役所や地元企業、観光協会などが10人以上が講師として招かれた。

授業は、まず生徒たちの自己紹介から始まり、その後自衛隊という職業の紹介や近年多発する災害派遣の状況などの説明を行った。質疑応答では「災害派遣中、挫折しそうになったことはあるか」「仕事でのやりがいについて」「なぜ職業として自衛隊を選んだのか」など授業のテーマに沿った質問に対し、広報官が実体験などを交えながら分かりやすく丁寧に答えた。

最後に、村松広報官から「今後もいろいろな機会を通じて自分たちの周りを見渡し、社会を支えている人たちの存在や大切さを考えてみてほしい。その中で自衛隊について少しでも興味があれば、さまざまな機会を活用して自衛官の話に耳を傾けてみてほしい」とアドバイスを送り、授業を締めくくった。

静岡地本は、今後もこのような学校の取り組みに対する協力を積極的に続け、自衛隊への関心や各種制度の周知に努めていく。

自動車専門学校の文化祭で自衛隊を紹介



自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、10月8日（日）に専門学校静岡工科自動車大学校（静岡市）及び静岡県自動車学校静岡校（同市）で行われた「静岡カーフェスティバル」において広報活動を行った。

このイベントは、「クルマ好き家族」をキーワードとして自動車業界に興味を持ってもらうことを目的に、学生が日頃の学習の成果を発揮する「メカニックコンテスト」や、県内外から集まった「オーロドカー」の展示などを行い、約4200人の来場者で賑わった。自衛隊ブースでは、災害派遣などでも活躍する陸上自衛隊の中型トラックや災害派遣活動のパネル展示を行い、大学校の学生に運転席やエンジン部など自衛隊で使用される特殊車両の特徴を専門学生ならではの視点で見学してもらい、理解を深めてもらった。

また、自動車大学校であることから自衛官採用制度説明コーナーでは、自衛隊における車両整備員の役割や活動、各種の隊員募集制度の仕組みや将来のコースについてわかりやすく説明を行った。

説明を聞いた学生からは「今学校で学んでいる技術や知識が、そのまま自衛隊で活かせることを知って興味が出てきた」などの声が聞かれた。

静岡地本は、今後も学校行事などに積極的に参加するとともに、自衛隊には学校で取得した経験や知識・技能を生かす機会がたくさんあるということをPRし、優秀な人材を獲得できるよう活動していく。